

「子宮頸^{けい}がん」から あなたを守るHPVワクチン 無料接種期限がせまっています

無料接種期間を過ぎると接種費用は全額自己負担(約10万円[※])になります

※9価HPVワクチンの場合

ワクチンの
正しい情報を知りたい

健康で
ありますように

ワクチンでがんを
予防できますように

無料接種で
安心を手に入れたい

公費で無料接種できます

※4ページ目参照

接種機会を逃した方の無料接種
キャッチアップ接種

無料接種は2025年3月まで

1回目は遅くとも2024年11月までに！

キャッチアップ接種対象者

1997年度～2007年度生まれの女子

「子宮頸がん」を予防するワクチン
HPVワクチン定期接種

定期無料接種は遅くとも高1の9月までに！

定期無料接種対象者

小学校6年生～高校1年生相当の女子

HPVワクチンとは

HPVワクチンとは子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンは予防効果が高く定期接種年代(小6～高1)の接種において約90%の予防効果、キャッチアップ接種年代の接種においても約50%の予防効果が報告されています。

子宮頸がんの
予防について
もっと詳しく
知りたい方は
こちら→



公益社団法人三重県医師会 三重県小児科医会 三重県産婦人科医会

(制作・提供 一般社団法人 一宮市医師会)

子宮頸がんはワクチンで予防することができます

● 9価ワクチンの接種で子宮頸がんの9割以上を予防できます

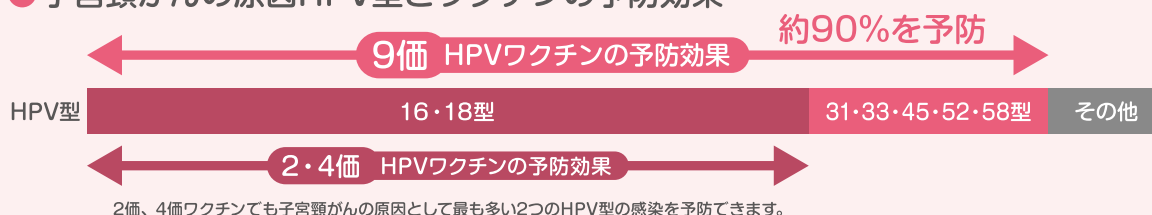
子宮頸がんは、HPVワクチンの接種により予防することができます。

他のワクチンと同じように安全性と有効性が認められています。

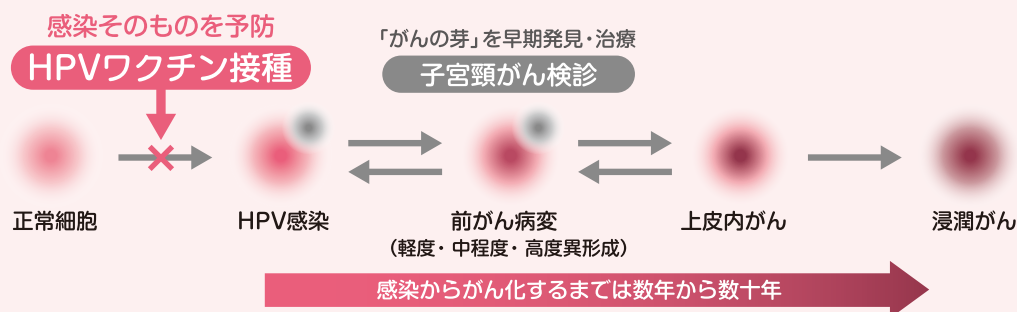
2023年度から開始された「9価HPVワクチン」はすでに世界中の国と地域で承認されており、子宮頸がんの原因となるHPV型の9割近くの感染を予防できます。



● 子宮頸がんの原因HPV型とワクチンの予防効果



● 子宮頸がんの進行とHPVワクチン接種の予防効果



● HPVワクチン接種後のリスクについて

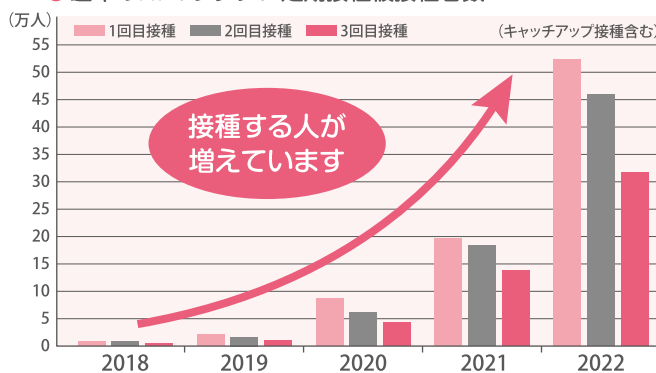
HPVワクチンの接種にも他のワクチンと同様に注射部位の痛み・腫れなどが見られることがあり、まれにアレルギー反応が起こる事があります。また、まれに広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状（機能的な身体症状）が報告されましたが、ワクチン接種との因果関係については証明されていません。副反応と思われる症状がみられる場合は、まずは接種医（かかりつけ医）にご相談ください。

万一副反応が起こった場合の
愛知県内の相談窓口や医療機関情報



● 日本でも年々、HPVワクチンを接種する人が増えています

● 近年のHPVワクチン定期接種被接種者数



第94回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和5年度第5回薬事・食品衛生審議会薬事分科会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（合同開催）資料
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000208910_00061.html

男性へのHPVワクチン接種について

男性もHPVに感染します。中咽頭がんや肛門がん、尖圭コンジローマなどの原因となります。

男性がHPVワクチンを接種することにより、これらの病気の予防効果が期待できます。

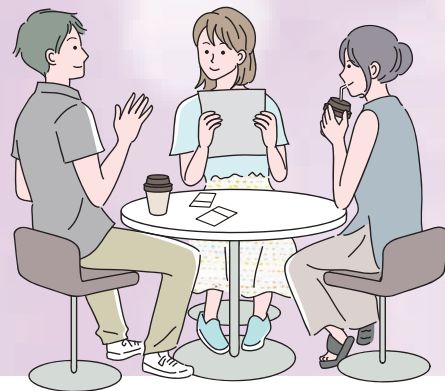
さらに男性がワクチン接種をすることで女性への感染を防ぐことができ、子宮頸がんの予防にもつながります。現在、男性へのHPVワクチン接種は4価HPVワクチンのみが承認されており、全額自己負担となります。（3回接種で約5万円）

平成9年度生まれ～平成19年度生まれの女性へ

令和5(2023)年4月より

「HPVワクチン」 の接種の機会を逃した方も 9価のワクチンを公費で 接種できるようになりました

※公費で接種できるのは令和7(2025)年3月末までです。希望される方は、お早めに3回の接種を完了してください。



Q 「HPVワクチン」とはなんですか？

A HPVワクチンは、子宮頸がんの原因となる、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐワクチンです。HPVワクチンには、9価のワクチンのほかに、2種類のワクチン(2価のワクチン、4価のワクチン)があります。どのワクチンを接種するかは、医師にご相談ください。

Q 9価のHPVワクチン(9価ワクチン)とは、どのようなワクチンですか？

A HPVにはいくつかの種類(型)があり、9価ワクチンは、このうち9種類のHPVの感染を防ぐワクチンです。その中でも、子宮頸がんの原因の80～90%を占める、7種類のHPV※の感染を予防することができます。

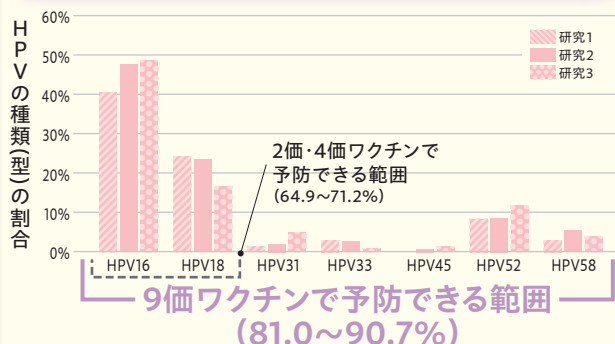
※16型、18型、31型、33型、45型、52型、58型

Q 9価ワクチンの接種後に副反応はありますか？

A 9価ワクチンの接種後には、右表の副反応が起こることがあります。

接種後に体調の変化や気になる症状が現れたら、まずはワクチンを受けた医療機関などの医師にご相談ください。

日本人女性の子宮頸がんにおけるHPVの種類(型)の割合と、ワクチンで予防できる範囲



「9価ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンファクトシート」(国立感染症研究所)をもとに作成
研究1: Onuki, M., et al. (2009). Cancer Sci 100(7): 1312-1316. 研究2: Azuma, Y., et al. (2014). Jpn J Clin Oncol 44 (10): 910-917. 研究3: Sakamoto, J., et al. (2018). Papillomavirus Res 6: 46-51.

接種後に現れる可能性のある症状

発生頻度	報告されている症状
50%以上	疼痛(痛み)*
10～50%未満	腫脹(腫れ)*、紅斑(赤み)*、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい(頭がぼーっとしてふらつく感覚)、悪心、下痢、そう痒感(かゆみ)*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感(だるさ)、硬結*など
頻度不明	感覚鈍麻(刺激に対して感覚が鈍い状態)、失神、四肢痛など

シルガード®9 添付文書(第1版)より改編

*ワクチンを接種した部位の症状

あなたと関係のある“がん”があります

- 子宮頸がんは、子宮の頸部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,900人の女性が子宮頸がんによって亡くなっています。
- また、若い年齢層で発症する割合が比較的高いがんです。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。日本では、25～40歳の女性のがんによる死亡の第2位は、子宮頸がんによるものです。
- HPVの感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを予防できると期待されていますが、ワクチンで防げないHPV感染もあります。子宮頸がんを早期に発見し治療するため、20歳以上の方は、定期的に、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

平成9年度生まれ～平成19年度生まれ(誕生日が1997年4月2日～2008年4月1日)の女性の中に、小学校6年から高校1年の頃に、接種の機会を逃した方がいらっしゃいます。まだ接種を受けていない方に、あらためて、HPVワクチンの接種の機会をご提供しています。

9価ワクチンについてのより詳しい情報は、こちらをご確認ください。



ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

詳しい情報は、こちらをご確認ください。



一般的な接種スケジュール

9価ワクチン(シルガード®9)で接種を開始する方は、決められた間隔をあけて、合計3回接種します※1。
1回目または2回目に気になる症状が現れた場合は、2回目以降の接種をやめることができます。

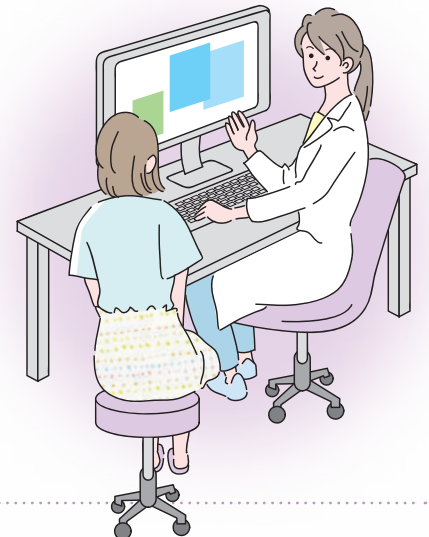
※1 シルガード®9は、15歳未満はスケジュールが異なります。



これまでに、2価 または 4価のHPVワクチン (サーバリックス®またはガーダシル®)を 1回または2回接種した方へ

原則として同じ種類のワクチンを接種することをお勧めしますが、医師と相談のうえ、途中から9価ワクチンに変更し、残りの接種を完了することも可能です※。この場合にも公費で接種することができます。

※2価または4価のHPVワクチン(サーバリックス®またはガーダシル®)を接種した後に9価ワクチン(シルガード®9)を接種することに対する効果やリスクについての科学的知見は限定されています。



予防接種健康被害救済制度について

極めてまれですが、予防接種を受けた方に重い健康被害が生じる場合があります。HPVワクチンに限らず、日本で承認されているすべてのワクチンについて、ワクチン接種によって、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害が残るなどの健康被害が生じた場合は、申請し認定されると、法律に基づく救済(医療費・障害年金等)の給付が受けられます。

HPVワクチンに関する相談先一覧

接種後に、健康に異常があるとき

- ▶ 接種を行った医師・かかりつけの医師、HPVワクチン接種後に生じた症状の診療に関する協力医療機関
※協力医療機関の受診については、接種を行った医師またはかかりつけの医師にご相談ください

不安や疑問があるとき、日常生活や学校生活で困ったことがあるとき

- ▶ お住まいの都道府県に設置された相談窓口(衛生部局、教育部局)

HPVワクチンを含む予防接種、インフルエンザ、性感染症、その他感染症全般についての相談

- ▶ 厚生労働省 感染症・予防接種相談窓口

予防接種による健康被害救済に関する相談や、どこに相談したらよいかわからないとき

- ▶ お住まいの市町村の予防接種担当部門



HPVワクチンについて、もっと詳しく知りたい方は厚生労働省のホームページをご覧ください。



厚労省 HPV



HPVワクチンに関するよくあるご質問(Q&A)については、こちらをご確認ください。

